

平成12年11月13日、富山全日空ホテルにて「**NEAR21** 北東アジア投資商談会」を開催しました。その中で、投資セミナーの一部分をご紹介します。

## 第1部 「中国西部大開発」

講師：岡本 敏昭  
(在重慶ジェトロ海外投資アドバイザー)



重慶を簡単にご紹介いたします。重慶は西部地区のほぼ玄関口に位置しております。上海から1600キロも離れて、なぜこんなに大きな重慶という街ができたか。中国でも最大級の工業都市なのですが、その沿革は、1937年に国民党政府が、日中戦争のために、南京から首都を重慶に移してきました。同時に、大きな大工場や企業を一緒に持ってきました。そのため、現在も軍需工場をベースに、技術レベルの非常に高い国営企業で大きな工業生産を行っています。

### 《西部地区の資源、エネルギー開発》

今、西部大開発を中国が国策にしたのは、沿海地区（東部地区）と内陸部（中部・西部）の経済格差の是正にあります。1979年に鄧小平が経済開放政策により、その後約20年間で、東部地区が著しく発展しました。一方で、西部地区は取り残されました。

中国西部大開発の目的と理念は、西部地区の都市開発、産業開発により、沿海地区との経済格差を縮めること、と同時に西部地区のエネルギー、地下資源、鉱物、電気、ガス、石油、特に天然ガスを大々的に、資源が不足している東部の方に運び、中国の全体的な底上げと開発を図ろうということなのです。

### 《生態環境の保護、環境汚染の防止》

西部大開発の目玉には、全国的に言えることなのですが、環境の保護に一番力を入れています。地域的には都市化が進み、それによる環境汚染は非常に深刻になっています。大気汚染が非常に進んでいます。これには日本政府も、環境ODAということで、かなりの額の円借款などもやっております。

さらに洪水による森林破壊を根本的に防ぐための具体的な方法として、農地を森林に回帰させようという動きがあります。それによって農民が失った所得等については、国家や地方自治体が金銭的な面や食糧とかそういったものを含めて保護を行うという政策をとっております。

### 《産業誘致、産業構造の改革》

西部地区の9割方が年間の所得が2000元、大体

2万5000円以下の所得レベルの貧困層になります。西部の中でも、大都市と近郊の農村部とはそういった格差がある。西部の中でもその格差を縮めようということで、外資導入等の大きな政策で打ち立てています。

99年度直接投資実績は、全国が403億ドル、西部は11億ドル。シェアは2.8%。人口約3割、面積約6割を占める西部地区ですが、直接投資、外資の投資は2.8%にしかすぎない。

### 《教育の向上》

西部大開発の目玉として教育水準の向上を図ろうと言っています。投資誘致だけでなく、実際に人材をやはり高度なレベルに養成しようということも掲げています。実際に、重慶、四川省の大都市の教育レベルは、非常に高い。重慶、四川省、この辺りの西部の基幹都市については、大学、研究所、それと技術者、そういったレベルが非常に高く数も多い。既存の軍需産業、兵器産業等を国営化し、民需、民間の製造業に転換しました。そして国有企業となって、そこに外資と合併でいろいろ近代企業を興し、それらがバックボーンになり高度な技術者、研究者を有しています。

例えば、横河電機の場合、「横河」の全体レベルをあげるため、「横河」の技術を全部中国側にディスクローズしました。ちょっとすんなり信じられないような、そういった技術移転まで含めて行えることができるほど、先方の技術の受け入れ能力が高いということが言えると思います。

しかし一番のネックは交通インフラにあります。これをしないことにはやはり底上げできない。鉄道、道路、交通、こういったものも、総合的に、まずここから着手しなければならない。このためには、国の予算、今年も1000億元、大体日本円で1兆3000億円の7割を西部地区のインフラに投資しようということをやっています。中国の場合には、国家政策でやりますので、日本が10年かけてやることをここは1年でやります。ですから、あと2～3年でこちら辺りのアクセスがよくなると思います。